

週刊新潮

1月26日号
400円



4

注目の名医 40

●スペシャルインタビュー
Special Interview

17 医療
リネサンス

医療法人
堀井乳腺外科クリニック

院長
堀井吉雄 医師

群馬・館林●増えてきた乳がんに対し地域ぐるみの連携で的確な処置を行う

女性が気軽に訪れられる乳がん専門医院 乳腺や甲状腺(橋本病・パセドウ病など)の病気、がん検診

丁寧な診療と豊富な経験で信頼されるクリニック
地域では貴重な乳がん専門医院として知られる「堀井乳腺外科クリニック」。丁寧な診療を心掛けているため来院者数は限られてくるが、それでも口コミで評判は益々広がっている。予約も数か月待ちの状態とのこと。その理由は、院長を務める堀井吉雄医師の医療に対する姿勢・取り組み方にあるようだ。同院は乳がん検診で再検査になった方

や、何らかの症状があつて受診を希望している患者さんであふれている。それらの患者さんは「乳がんイコール死」をイメージし、精神的にも追い詰められてやってくる方が多い。そのような不安を取り除くための検査や説明には時間をかけており、特に乳がんの超音波診断には定評がある。毎週水曜日には、館林厚生病院で手術も行っており、乳がん発見から手術、術後の長期にわたる治療ができるという安心感も人気の要因のようだ。

なつたのは、大学からの出向で勤務していた館林厚生病院で、担当する乳腺内分秘外科の外来の患者さんが増えたことにある。これ以上外来診療日を増やすことが難しく、病院だけで検査、手術、手術後の治療のすべてを行うよりも、病院と連携して外来診療を行う専門医院があつた方がよいと考え、館林厚生病院の近くでクリニックを開業した。それにより、今までの患者さんを逃す一方、より多くの患者さんを診ることができるようになった。館林厚生病院と連携を取ることによって、病院での堀井医師執刀による手術、治療がスムーズにでき、患者さんの負担も少ない。患者さん、病院、クリニックが協力し合っている関係である。群馬県立がんセンターを始めとした近隣の病院とも連携しており、「病院と専門乳がんの治療には早期発見が重要で、地域ぐるみのしつかりとした連携で乳がんの早期発見、適切な治療に貢献できる

病院と連携した医療サービス

群馬大学医学部附属病院や埼玉県立がんセンターなどで乳腺内分秘外科の最前線の臨床に携わっていた堀井医師が、大病院にはない小回りが利く、患者本位の専門クリニックを立ち上げるきっかけに

なつたのは、大学からの出向で勤務していた館林厚生病院で、担当する乳腺内分秘外科の外来の患者さんが増えたことにある。これ以上外来診療日を増やすことが難しく、病院だけで検査、手術、手術後の治療のすべてを行うよりも、病院と連携して外来診療を行う専門医院があつた方がよいと考え、館林厚生病院の近くでクリニックを開業した。それにより、今までの患者さんを逃す一方、より多くの患者さんを診ることができるようになった。館林厚生病院と連携を取ることによって、病院での堀井医師執刀による手術、治療がスムーズにでき、患者さんの負担も少ない。患者さん、病院、クリニックが協力し合っている関係である。群馬県立がんセンターを始めとした近隣の病院とも連携しており、「病院と専門乳がんの治療には早期発見が重要で、地域ぐるみのしつかりとした連携で乳がんの早期発見、適切な治療に貢献できる



●PROFILE 堀井 吉雄 (ほりい・よしお)
医学博士。1988年群馬大学医学部卒業。同大学医学部附属病院、埼玉県立がんセンター、館林厚生病院等で、乳腺外科を中心とした乳腺内分秘外科の臨床経験をつむ。日本外科学会外科専門医、日本乳癌学会乳腺専門医。



医療法人 堀井乳腺外科クリニック
http://www.horii-bc.jp/

診療時間 ● 9:00~12:30 / 14:00~18:00
診察は予約制。休診日 ● 水曜・日曜・祝日
所在地 ● 群馬県館林市北成島町 2645-4
電話 ● 0276-55-2100

堀井乳腺外科クリニック



病院らしさを排したゆったりあがるロビー

「病院らしさを排したゆったりあがるロビー」と思いますが」と堀井医師
「病院らしさを排した空間
そして同院を魅力的にしているもう一つの大きな特長が、女性目線でデザインされたお洒落なスペースと、不安な患者を温かく迎えるスタッフだ。二病院にありがちな、医療関係のホスタールなど、不安をあおる要素は一切排除し、少しでも気持ちの和らぐ空間を提供したいと考えました」というのは堀井みゆき事務局長、診察室や検査室
というプレー
トすらないのだが、スタッフ
フがその都度
案内している
ので、来院者
が不便を感じ
ることはない
という。